

平成30年度 (2018～2019) 事業報告

平成30年4月1日 ～ 平成31年3月31日

1. アイメイトの育成訓練及び研究開発

(イ) 【候補犬の訓練】

	訓練内容	適要
1 ヵ月	性格・素質判定と健康管理	◇ 性格並びに素質を観察 ◇ 健康診断の後、健康上問題のない適性犬は、避妊或いは去勢手術・各種ワクチンを接種。
4 ～ 5 ヵ月	基礎訓練	アイメイトとして必要な課目を教え、服従心と学習への態度の基礎を作る。
	誘導訓練	ハーネスを付け盲人の歩行時の、障害となるもの、又は危険な物を告知し、或は回避する訓練
	仕上げ及びテスト	指導員が目隠しをして、訓練の完全度をテストする。
4 週間	歩行指導	アイメイト使用を希望する視覚障害者4名1クラスを原則に、宿泊により指導する。

(ロ) 【種犬の充実と候補犬の質の向上】

候補犬の資質がアイメイトの実績に大きく関わるので、繁殖犬の選定・組み合わせを考慮した。

出産の数・時期等は人為的にコントロールできないので、種牡・台牝の補充を常に念頭に置き、優秀と思われる犬の探索を心がけたが該当するレベルの種牡・台牝は見つからなかった。

2. アイメイトによる盲人の歩行指導並びに日常生活指導

(イ) 【調査】

アイメイト使用希望者に対しては、アイメイトによる歩行指導の可否を判断するため面接調査を実施した。また、使用希望者の質疑に答えたり、実際にアイメイトとの歩行体験をさせたりする事により、安心感を持たせることに努めた。

ペットではないことを理解し、共生して生活することが可能な人であるかを判定する事も大切である。最終的には、アイメイトを使用することにより『積極的に社会参加を目指す意欲』があることが重要ポイントとして調査した。

(ロ) 【歩行指導実施結果】

回数	期	人数	期 間
1	455	3	'18.04.14 ~ '18.05.12
2	456	1	同上
3	457	4	'18.05.19 ~ '18.06.16
4	458	4	'18.06.16 ~ '18.07.14
5	459	0	同上
6	460	1	'18.09.15 ~ '18.10.13
7	461	3	'18.10.20 ~ '18.11.17
8	462	2	'19.01.12 ~ '19.02.09
9	463	4	'19.02.16 ~ '19.03.16
計		22	

(ハ) 【歩行指導内容】

入 校 (土曜日)		
視覚障害者への	盲人の歩行状態テスト 性格観察	チェーンカラー・引き紐・ハーネスの扱い方、 指導員によるハーネス歩行
	ペア決定	
	各人の犬を決定し、パートナーを作るが犬と人の性格の一致が重要である。	指示語、誉め方・叱り方と意義・ハーネスの付け方 等
歩行指導 (土曜日から4週間)		
歩行指導	歩行指導開始、各週毎に定められたコースを歩く 第一週： 毎日17 ~ 3.2km 第二週： 〃 2.1 ~ 4.2km 第三週： 〃 3.4 ~ 6.8km 第四週： 〃 4.8 ~ 9.6km 全体で約 120km の行程をマスターする。 各週末にテストを行い、進捗状況をチェックする。	歩き方の基本及び姿勢、コーナーの練習、 服従、分岐点、人車道の区別、 歩道橋、信号判断の方法、人車道の区別のない道の歩行、ガードレール内の歩行、繁華街、レストラン、エスカレーター、エレベーター、踏切、電車や自動車の利用法、排便の始末、犬のシャンプー、ブラッシング、犬の餌の作り方、体重測定 等
講義内容	犬の管理及び衛生	飼料/内容・作り方・与え方 等 手入れ法/ブラッシング・シャンプー・耳掃除等・犬の歯磨き 等 犬の管理/ 正常、異常の区別、体重測定、投薬、検温、便の始末 等
	アイメイトの使用法	アイメイトの歴史・訓練・指示語・犬の心理及び表情 等。 社会との対応の仕方・アイメイトを使う側のマナー
上記の他にこの期間中、健常者と変わらない状態で生活するように(夜間の点燈、スマートな食事の方法等)指導する。		

(ニ) 【フォロー・アップ・サービス】

アイメイトによる歩行指導は、視覚障害者の自立と生活の向上を最終目標としている。

卒業生の歩行問題・環境・その他についての質問は、本人から協会へ直接連絡する様に指導している。これは自立にとって大切な行動である。

その質問内容によっては遠近に関わらず訪問指導を行い、卒業生の目としてアイメイトが十分に機能することを目指した。

3. 生活に関する各種相談及び歩行指導員の養成

(イ) 各種相談

使用者のあらゆる相談にも応じ、様々の指導を適宜実施した。

使用者の犬具の整備、飼育・歩行及び管理に就いての相談や指導、本人の病気など特別な事情の場合の犬の預かり、止むを得ぬ事由の返還犬の飼育、死亡犬の供養、使用者の就職、結婚或いは離婚、住宅問題、公共施設の利用・宿泊問題 等にも誠意を以て対応した。

(ロ) 指導員の養成

歩行指導員は現在4名、

既存の研修生3名とH30年度採用の2名にはアイメイト協会の精神を理解した、有能で柔軟な思考ができる指導員に育てる努力をした。また今年度も継続的に歩行指導員研修生採用に努めた。

「犬」を主体と考える社会の風潮の中、視覚障害者への意識も含め、対人教育であるという哲学を軸に考え、社会人としても視野の広い歩行指導員の養成を目指した。

4. アイメイトに関する啓発

(イ) 【啓 発】

アイメイトを使用する環境の整備と向上の為に、一般社会への啓発運動として毎月最終土曜日を見学日として体験歩行も実施した。

企業からの依頼や学校・社協・ロータリークラブ、ライオンズクラブ、ガールスカウト、ボーイスカウト等の要請にも可能な限り応じ、マスコミ・出版関係にも協力して啓発の促進を計った。

(ロ) 【広報活動】

アイメイトの理解に役立つ機関誌『アイメイト 50号』の発刊。その他広報活動を広げ、アイメイトへの理解者及び協力者の拡充を図るように努めた。

アイメイト協会の紹介ビデオを作成し、インターネット動画として認知度向上にも努めた。

ホームページも適宜更新し、人に視点を置いた正しい情報を提供した。協会で作成したDVDも貸し出し或いは頒布し、アイメイト協会の全体像・ポリシーを広めるよう努力した。

(ハ) 【アイメイト・デー】

第42回を迎えるアイメイト・デー

社会的にアイメイトに対する認識の向上と理解をアピールできる機会と捉え、10月14日(日)にTKP竹橋を会場に実施した。

5. その他、目的達成に必要な諸事業

(イ) 【当協会の同窓会・後援会・飼育奉仕・繁殖奉仕者・サポート会の充実】

卒業生の集まりである同窓会は総会・レクレーション・CD通信ひろば(年4回)等を実施。その同窓会活動に協力した。

後援会はミニ通信発行や募金活動、チャリティーコンサート、チャリティー・グッズの頒布等を企画・推進し、協会と共に活動した。

飼育奉仕家庭(リタイア犬飼育を含む)及び繁殖奉仕家庭は、陰の力として大きな支えとなっている。飼育奉仕段階での問題にも積極的に機会を捉えて相談に乗ったり、フォローすると共に、繁殖奉仕者・飼育奉仕者及びリタイア犬の飼育者へ感謝の意を伝えるようにした。

サポート会員も層を広げる努力をした。

アイメイト協会は各協力者の方々と緊密な縦横の連繋を取りながら、アイメイトの総合的な発展及び啓発活動を行い、アイメイト育成事業の充実を計った。

(ロ) 【海外の盲導犬育成施設との交流】

我が国の盲導犬事業のリーダーとして積極的に技術の供与にも協力し、米・英・その他海外の盲導犬施設とも交歓・友好を通して情報・技術・種犬等の交流を拡大し、事業内容の一層の充実を計る。シーイングアイとの関係維持のため今年度も歩行指導部長を派遣した。

各国の施設とも交流を持つと共にアイメイト協会の実力を世界に知らしめるべく努めた。